

事例発表などで意識高揚

県ビルメンテ協会が安全衛生大会



91人が出席し安全意識の高揚を図った



大山会長



田澤茨城労働局
労働基準部長

県ビルメンテナンソ協
会(大山進会長)はこの
ほど、2017年度労働
安全衛生大会を水戸市の
県総合福祉会館コミュニ
ティホールで開催し
た。会員など48社91人が
出席し、講演会や対策事
例の発表などを実施。過
重労働の防止対策などを
説明し、安全意識の一層
の高揚を図った。

はじめに大山会長が
「労働安全衛生は各企業
が最優先で取り組むべき
重要な課題。特に社員の

過重労働や長時間労働は適切な対応が強く求められる。今回の講演会や事例発表を参考とし、今後の対策に生かしてほしい」とあいさつ。
続く来賓あいさつでは、茨城労働局の田澤修二労働基準部長が話した。
講演会では日本労働安全衛生コンサルタント会の藤原歳郎茨城支部長(社会保険労務士)が「過重・長時間労働の健康障害と防止対策」と題し講演。過重労働や長時間労働などによって健康障害の危険性が高くなることを話した上で、残業の実態把握、職場環境の改善、業務特性に合った働き方などの防止対策の方法を説明した。
休憩を挟み、労働安全衛生対策の事例発表を実施。日東メンテナンソ(株)の渡邊泰真氏が「7S運動と床面清掃時のスリッ

プ事故」、総合建物サー
ビス(株)の浅野雅人氏が
「弊社における労働安全
衛生への取り組み」につ
いてそれぞれ説明した。
最後に、同協会労働安
全衛生委員会の川上英則
委員長が大会宣言を読み
上げ、全員で「私たち
は、ゼロ災害を目指し、
安全・安心かつ健康的で
明るい職場環境の確保に
全力で取り組んでいくこ
とを、ここに宣言しま
す」と唱和。安全意識の
高揚を図った。
川上委員長は「業界全
体の労働災害防止に向
け、大会を通し、一人一
人の安全意識を高めてい
きたい」と話した。